

平成 28 年度 第 1 回 新潟市立坂井輪図書館協議会

日 時 平成 28 年 7 月 15 日 (金)

午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分

会 場 坂井輪地区公民館 4 階 美術工作室 2

次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 館長あいさつ
- 4 委員自己紹介
- 5 事務局職員紹介
- 6 会長・副会長選出
- 7 会長・副会長あいさつ
- 8 議事
 - (1) 報告事項
 - ①平成 27 年度 事業報告 (坂井輪・内野・黒埼) 等
 - ②平成 27 年度 西区図書館利用統計
 - ③平成 27 年度 西区図書館へ寄せられた市民の声
 - ④平成 28 年度 事業計画 (坂井輪・内野・黒埼)
 - ⑤平成 28 年度 西区図書館予算
 - ⑥地区図書室の有効活用について
 - (2) 協議事項
図書館評価について
- 9 その他
- 10 閉会

出席者

委 員：伊藤委員、小島委員、中山委員、尾崎委員、山田委員、越智委員、
平栗委員、本間委員

事務局：辰口館長、戸塚主査、中村主査

傍聴者：1 名

■ 平成 28 年度 第 1 回 新潟市立坂井輪図書館協議会

日 時：平成 28 年 7 月 15 日（金）午前 9 時 30 分から

会 場：坂井輪地区公民館 4 階 美術工作室 2

（司 会）

ただいまより平成 28 年度第 1 回新潟市立坂井輪図書館協議会を始めさせていただきます。

本日の司会進行をいたします戸塚です。よろしくお願いいたします。

図書館協議会は、図書館法の規定で「図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に意見を述べる機関とする」とあるとおり、図書館長に対し図書館サービスに関する意見を言うていただく役割があります。新潟市立図書館条例でも、第 19 条に図書館協議会の設置や委員の選出、任期などが定められておりまして、さらに本協議会運営について教育委員会規則でも定められております。

坂井輪図書館におきましては、平成 26 年度に中心館となりまして、それと同時に協議会を設置いたしました。今年が 3 年目になり、設置当時の委員の皆様の任期は 2 年間で、今年の 3 月で一度任期は終了となったのですが、引き続きお力添えいただきたく、4 名の方には再任をお願いさせていただきました。そして今回新しく 4 名の方が加わり、計 8 名の方にこの平成 28 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの 2 年間、坂井輪図書館協議会委員として務めていただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

本日、出席委員は 8 名、全員の方に出席いただきましたので、新潟市立図書館協議会運営規則第 4 条の規定によりまして、会の成立要件の委員定数の半分以上を満たしておりますので、会議を開催いたします。

なお、図書館協議会は市民の皆様に公開しておりますが、現時点でお一人の方から傍聴に参加いただいております。新潟市立図書館協議会の傍聴に関する要領に従って傍聴していただきますよう、よろしくお願いいたします。

また、この会議の内容ですが、録音、記録いたしまして、後日ホームページで公開する予定ですので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして進めてまいります。まず、皆様へ委嘱状の交付になりますが、あらかじめ机の上に置かせていただきましたので、確認をお願いします。

開会にあたりまして坂井輪図書館館長の辰口よりあいさつを申し上げます。

（館長）

皆様、おはようございます。お忙しいところお越しいただきまして、どうもありがとうございます。

ただいま委嘱状をお渡しいたしました。新しく委員になられた方、4名の方、引き続きの方、4名の方ということで、2年間いろいろなご意見をいただきながら、よりよい西区の図書館運営を目指してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

西区では、先ほど申し上げましたとおり、平成26年度にリニューアルオープンいたしまして、それと同時に図書館協議会を発足いたしました。区内には、坂井輪図書館のほか内野図書館、黒崎図書館がありまして、また、地域に根差した小さい図書室ということで7つの地区図書室がございます。

今年度は、新潟市立図書館ビジョン、平成22年度に10年間の計画として策定いたしまして、その後期計画の5年間の2年目に当たります。本日は、その図書館ビジョンに沿って評価をしていただき、皆様からご意見をいただきたいと考えております。西区の中心図書館として、1年目は地を耕し、そして種を撒いた。そして2年目はその花が咲き始め、そして今年度の3年目、実を結びつつある。でも、その花も取捨選択をしていかななくてはいけない、検証していかななくてはいけないと考えております。地域に愛される図書館を目指して今後どのように進めていったらいいのか、そのようなところを中心に皆様から忌憚のないご意見をいただいて、一緒に進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(司 会)

ありがとうございました。

次に、委員の皆様からの自己紹介をお願いしたいと思います。

<委員自己紹介>

(司 会)

続きまして、事務局職員からも自己紹介をさせていただきます。

<事務局職員自己紹介>

(司 会)

では、続きまして新しく任期が始まりましたので、会長及び副会長の選出をいたします。新潟市立図書館条例第19条の中で、協議会の会長と副会長を一人置くこととされております。

す。会長は会の総理を、副会長は会長に事故があるときはその職務を代行していただきます。選出方法は、図書館協議会運営規則第2条の規定で委員の互選によるとなっております。選出について、立候補や推薦等がありますでしょうか。

(中山委員)

事務局案はありませんか。

(司 会)

事務局といたしまして、まだ3年目の協議会ということで、前回から引き続きまして、会長に小島委員、副会長に中山委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございます。それでは、小島委員から会長を、中山委員から副会長をお願いいたします。

では、会長、副会長席に移動をお願いいたします。

改めて会長、副会長から一言ごあいさつをお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

<会長・副会長あいさつ>

(司 会)

では、議事に入ります前に、資料の確認をしたいと思います。

まず、事前にお送りした資料ですが、次第がありまして、資料1、平成27年度事業報告(坂井輪、内野、黒埼)。資料2、平成27年度西区図書館利用統計。資料3、平成27年度西区図書館へ寄せられた市民の声。資料4、平成28年度事業計画(坂井輪、内野、黒埼)です。資料5、平成28年度西区図書館予算一覧。資料6-1、地区図書室の有効活用について。資料6-2、西区地区図書室の開室時間等について。協議事項の配付資料としまして、説明資料、図書館協議会における図書館評価について。そしてA3でシートNo.1、平成27年度新潟市立図書館施策・事業評価シート。シートNo.2、平成27年度新潟市立図書館指標別評価シート。そして、少し厚く綴じてありますが、図書館評価用の参考資料です。これが事前に配付した資料です。不足はありませんでしょうか。

今日、当日机の上に置きました資料ですが、委員の方の名簿、座席表。参考資料として、後ほど説明しますが、平成26年度の図書館評価シートです。そして切手が貼ってある封筒です。評価シートを、今日提出していただける方は会議終了後ご提出をお願いしたいので

すが、後日提出していただく方は返信用封筒で返送をお願いいたします。

それでは、小島会長から議事の進行をお願いいたします。

(小島会長)

では、これから議事に入りたいと思います。次第に従いまして進めていきたいと思いますが、よろしくをお願いいたします。

では、(1)の報告事項であります。①事業報告、②図書館の利用統計、③市民の声、これについてまとめて説明をしていただきまして、その後ご意見、ご質問等を受けたいと思います。では、事務局よろしくをお願いいたします。

(事務局)

それでは、資料1「平成27年度事業報告」をご覧ください。こちらの資料は、前回の協議会のときにも1月末までの実績を掲載して皆様に送らせていただきました。今回は、平成27年度分すべてを掲載しております。前回より追加された事業、それから、前回ご質問があってこちらからその場で正確に回答ができなかった分について抜粋して簡単に説明させていただきます。

では、まず(1)実施事業報告の坂井輪図書館、児童対象事業のところをご覧ください。こちらは昨年度の事業で子ども対象のものを載せておりますが、前回上から3番目の「おはなしのじかん」で、備考にある「西区共通スタンプカード実施」について、ほかの区での実施状況がどうなっているのかというご質問をいただきました。その場では正確な回答をお伝えできなかったので今回こちらでお調べした結果をお伝えします。西区同様に区全体でスタンプカードを実施しているところは、西区以外では秋葉区で実施しております。ほかには、区ではなくて館独自で行っている図書館もあります。それが、中央図書館、豊栄図書館、鳥屋野図書館、石山図書館となっております。

続きまして、2ページ目の一般・その他対象事業をご覧ください。一番下の「ゆりかご学級特別編」を2月に行いまして、前回のものにこちらを付け加えております。

続きまして3ページ目の内野図書館ですが、こちらは2月、3月以降追加された事業は特にございませぬ。前回と同じになります。

4ページをご覧ください。黒崎図書館ですが、こちらは一般・その他対象事業の一番下です。「古い雑誌お分けします」で、図書館で不要になった雑誌を一般の方々に配布するという事業ですが、こちらを2月に実施しました。

続きまして5ページ目、6ページ目、こちらは特に変更はございません。6ページ目の(4)図書館ボランティア活動ですが、こちらにも3月末までの人数を付け加えております。

続きまして7ページ、(6)展示も、3月末までの分を各館ごとに追加させていただきます。

ました。

以上、簡単ですが、事業報告について説明させていただきました。

それでは、資料2「平成27年度西区図書館利用統計」をご覧ください。こちら、前回は1月末までの数値で暫定値という形で出させていただきましたが、今回は昨年度末までの確定数値が出ました。

まず、貸出人数や貸出冊数平均、予約件数の1日平均値を見ていただくと前年度との比較が分かると思います。坂井輪図書館では、大きな変化はありません。開館して1年経ちまして、利用する人が落ち着いて固定化されたと考えられます。新潟市全体が右側にございます。こちらと比較してもそれほど大きな変化はないということが分かります。内野図書館、黒埼図書館の前年度比をご覧くださいと若干減っています。これは、坂井輪図書館が開館した影響と考えられます。その前の年は坂井輪図書館が閉館している時期がありましたので、そのため坂井輪図書館のオープンで坂井輪図書館の利用者が減ったと考えられます。

続いて予約の平均値をご覧ください。坂井輪図書館は、平成27年度は平成26年度に比べて105パーセントとなっております。こちらは、全体的に予約をする利用が伸びていると考えられます。坂井輪図書館はまだオープンして間もないので蔵書数なども完全に揃っていないということもあり、予約する人数が増えているとも考えられます。また、インターネットの普及でネットからの予約もかなり増えています。

続きまして、参考に下の中心館との比較を見ますと、坂井輪図書館は亀田図書館や新津図書館と比較して利用数は大きく変わりませんが、予約が多いということが分かります。新潟市全体の数値と比べていただくと、予約の数値は坂井輪図書館だと平成27年度は全体で8万5,000余りなのですが、新潟市全体が73万5,000余りで、1割以上の予約を坂井輪図書館で行っていることが分かります。全体的に坂井輪図書館は予約が多い図書館だということが、こちらの数値から分かります。

以上、西区図書館利用統計を簡単にご説明させていただきました。

(事務局)

続きまして、資料3「平成27年度西区図書館に寄せられた市民の声」をご覧ください。新しい委員の方もいらっしゃいますので、まずこの市民の声、いわゆる「図書館へのたより」について説明させていただきます。図書館への要望や、ご意見、ご質問などをお聞きするために、各館内に専用の記入用紙と回収ポストを設置しております。それに書いてポストに入れていただくのですが、いただいたご意見、ご質問に対して、こちらで回答を館内に掲示したり、住所が書いてある方については直接ご本人宛に回答をしております。

平成 27 年度は、坂井輪図書館で 42 件、内野図書館は 0 件、黒崎図書館で 4 件、計 46 件のおたよりをいただきました。主なご意見は記載のとおりとなっております。このたよりですが、割と小さいお子さんも書いてくれまして、主な意見にもありますが、「本がいっぱいあって便利です」、「優しい事務員さん、きれいな図書館とても好きです」、「カードを忘れても借りられるのですごいです」など、非常に嬉しいおたよりをいただいております。

一方、職員の対応ですとか施設面についての厳しい意見などもいただいております。職員対応でご意見があった場合は、職員での話し合いはもちろんなのですが、坂井輪図書館は窓口業務を民間に委託しておりますので、業者にもご意見を伝え、お客様に気持ちよく利用してもらえるよう努めています。対応できるものについては早急に対応しているのですが、施設面ですとか予算面でどうしても対応が難しいものについては、代替案の提示ですとか、ご理解いただけるように回答させていただいております。

以上で、資料 3 の説明を終わります。

(小島会長)

説明、ありがとうございます。今、報告事項の①、②、③をまとめて説明していただきました。順に質問やご意見等を伺いたいと思います。

それでは、最初に①の事業報告がございましたが、この件につきまして、昨年度の第 2 回の協議会で不明だった部分もお答えいただきましたが、何かございましたらお願いいたします。

もしまた後でありましたら言っていただきたいと思います。では、②です。図書館の利用統計、詳しく数字をお話しいただきましたが、何かご質問等はございますでしょうか。

(越智委員)

内野図書館と黒崎図書館なのですけれども、この減り方は坂井輪図書館ができたからというご説明だったのですが、それもあると思うのですけれどもそれだけかなという気がするのです。1 日当たりが内野図書館だと 40 人、黒崎図書館だと 20 人くらいですよ。冊数だと 1 日 150 冊と 80 冊くらい減っていて、坂井輪は増えていないのです。具体的に言えば、この 40 人、20 人はどこに行ったのだろうかというか、なぜ来なくなったのだろうかというのはもう少し別の理由を考えたほうがいいのではないかと思います。

当然、来なかった人になぜ来なかったのですかと聞くわけにはいかないのですが、いろいろと想像するしかないと思うのですけれども、やはり内野や黒崎の図書館も重要で、そこにも市民の人たちに来てもらうべきだと思いますので、坂井輪図書館ができたからと言うのだったら坂井輪図書館がもっと増えていてもいいと思うのです。坂井輪図書館が増えて

いないのに内野図書館と黒埼図書館がこんなにドカッと減っているというのは、何か別の理由があるのではないかなという気がしますけれども、やはり坂井輪図書館の新規開館以外の理由はまったくないのかなというのが少し疑問というか、本当の理由は分からないと思うのですけれども、このままどんどん内野図書館と黒埼図書館が減っていくとよくないとは思いますが。

(小島会長)

何か関連してご質問等がございますでしょうか。

(平栗委員)

では関連してですけれども、これを平成 25 年度と比べてみるとそれが分かりますよね。もしそのデータがあるのであれば、平成 25 年度と比べるとその辺のところも分かるかと思えますけれども。

(越智委員)

結局そういうことではないですか。平成 26 年度はここが休んでいたの、私などもそうだったのですけれども、内野図書館と、前年度実績がそうなったわけですね。ですから、その平成 25 年度の実績数がないと、通常ベースからどのくらい落ち込んだのかということとは分からないわけですよ。

だから、結局坂井輪図書館が 1 年近く休館していましたから。10 か月くらいでしたでしょうか。その分、そのときに行ったのが前年度の実績になっているから大きく落ち込んでいるようだけれども、通常ベースはどうだったのか。暦年をずっと辿っていくと、ということだと思えるのですよね。

(小島会長)

ありがとうございます。私も同じことを聞こうと思っていたので。平成 25 年度の数值は、多分今は出ないですよ。

(事務局)

1 日平均冊数はないのですけれども、坂井輪図書館の当時の貸出冊数が 27 万 7,638、内野図書館が 16 万 3,321、黒埼図書館が 19 万 3,588。これは平成 25 年度の貸出冊数の合計になります。

(越智委員)

そうすると、黒埼図書館などは平成 26 年度で大幅に増えているわけですよ。平成 25 年度の実績数值はどうでしたっけ。平成 25 年度の黒埼図書館。

(事務局)

平成 25 年度が 19 万ですね。

(事務局)

全体的に見ますと、平成 25 年度で坂井輪図書館が休館したのが 1 月から 3 月までです。その前に、その 1 か月前くらいから、12 月くらいから、坂井輪図書館はしばらく休館しますので坂井輪図書館でご利用になっている方、予約をしている方は、受け取りは内野図書館に行ってくださいとかそういうお願いをしていた関係で、11 月くらいからどんどん坂井輪図書館の利用者が減って、その分内野図書館、黒崎図書館、それからほんぽーと、西川図書館などに行く方が増えた。ですので、平成 25 年度の数字も本当の数字ではないと考えられます。平成 24 年度からどうかということを考えますと、やはり平成 24 年度からは、坂井輪図書館については伸びていて、内野図書館、黒崎図書館については、坂井輪図書館が休館している平成 25 年度、平成 26 年度で増え、そして平成 27 年度はその分減った。

一方で、坂井輪図書館はリニューアルオープンをしたので、平成 24 年度よりは増えています。それも平成 27 年度、平成 28 年度は増えてはいるのですが、内野図書館と黒崎図書館の減った分をカバーしきれないほどの増はない。越智委員がおっしゃったように、ではその間の人たち、差の人たちはどこに行ったのかと言いますと、これはこちらもお意見をお聞きしたいところもありまして、それ以外の理由が、西川図書館に行ったのか。でも、やはり全市的に図書館の利用が、こちらの資料を見ていただくと、全市で見ますとそれぞれ伸びてはいないのです。大幅に伸びてはいなくて、微増です。そして少ないところはどんどん減っているというところがありますので、その全市的な流れの一つなのかなど。ですので、逆に増えるためにはどのようにアプローチをしていったらいいのか、ご意見をいただけたらありがたいと考えています。

(小島会長)

では、まだデータが分からないということで。また、今度分かるようであれば、また示してもらえばいいかなと思います。

(中山副会長)

黒崎図書館について言うと、ほかの館が開館したときに減っていくということがありまして、特に新津図書館が開館したときに、黒崎図書館を利用していた人が新津図書館のほうに流れたとか。通勤路の関係とかがあるらしいのですけれども。それから亀田図書館が開館したときも、黒崎図書館が最寄だったのが急に亀田図書館のほうに近くなって、そちらのほうで、もっと遠くに住んでいる人が黒崎図書館に寄って、どういう通勤路か分からないのですけれども、ほかの新館が開館するたびに寄り道していた人がそちらに行くという、通勤路の関係なのではないでしょうか、何かそういう影響は何となく現場の職員の方は感じら

れていたみたいなので、平成24年とか遡っても、ほかの館の開館に合わせた減ったり増えたりの部分があるので、さかのぼっていても単純にはよく分からない部分も黒崎図書館に関してはあるのかなという感じがします。

(本間委員)

初めてこういう委員になって、こういう観点ではなくて一般市民の、図書館が好きなよ、図書館に行きたいのよという市民の観点からの話で申し訳ないのですけれども、図書館に借りに行く普通の市民にしてみると、やはり地元がすごく便利なときと、今日は時間がたっぷりあるから郊外の広々とした図書館でゆっくり過ごしたいなと思うときは西川図書館に飛んでしまいますし。だから、お客さんと言うとおかしいのですけれども、図書館を利用する人のニーズとかその日の気分であるとか、それから天気の状態とか、そういうときによって、そして図書館の個性というものが行くところにあるのですよね。ここの図書館はこういう本が多いし、ここはこのように整理してあるから急いで借りるときはここが便利だなとか、そういうニーズで選ぶので、ここは西区のことを話しているからこのような水を差すようなことを言うのは申し訳ないのだけれども、西区の数がどうのこうのではなくて、新潟市全体で本が好きなよという人が流動的に動いているのだなと思っていただけるといいのではないかなと思いました。

(尾崎委員)

それであれば、曜日別のデータが出ると原因が分かるのかなという気もしました。今の発言を受けるのであれば、例えば平日働いている方であれば、土日に図書館に行くということがありますよね。それも、例えば少し遠出をして郊外の静かなところに行ってみようとかという方がどれだけいるのかということも、曜日別とか時間帯とか利用者の年齢とかまで見ると原因というのも別に見えてくるのかなと感じます。

(山田委員)

内野などに引っ越しをしてくる若者がいますけれども、内野図書館は分かるのですけれども、坂井輪図書館の存在をそもそも知らないという方もいて、だから新規開館というか、地場に存在するということの周知がもしかしたらまだ行き届いていないところもあるのではないかと。CDが借りられたりとか、若者が来る魅力あることをけっこう知らない方がいるのです。

(平栗委員)

もう少し全体的な数値の話なのですけれども、いわゆる少子高齢化と言われているわけですよね。そうすると、日本の人口全体が減っているし、新潟市の人口も、いわゆる読書をきちんとできる数というのは果たしてどのくらいなの？ひよっとしたら全体的に減ってい

るのではないかと思うのです。ですから、単純に貸出数の増加とか、そういった数値だけを追っていくということもどうなのかなという疑問があるのです。

(小島会長)

ありがとうございます。いろいろな意見が広がっていったのですけれども、一番は、越智委員の内野図書館と黒崎図書館をもっと利用してほしいということからだと思いますので。数値だけを追っていくといろいろとあるかと思います。また、分かる数値は出していきたいと思うのですけれども、本当に内野図書館、黒崎図書館だけではなくて、この坂井輪図書館も含めてどうやって大勢の人に利用してもらえるかということに関して、これは、また後で事業計画等もありますので、そこも併せて後でご意見をいただきたいと思いますが、この件はここで終わりにしたいと思いますがよろしいでしょうか。

では、3番にいきたいと思います。「市民の声」ですね。これについて、何かご質問、ご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。では、次にいかせていただきたいと思います。

それでは、後半のほうになりますけれども、平成28年度の事業計画と予算につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

では、資料4「平成28年度事業計画」をご覧ください。まず(1)の実施事業計画、坂井輪図書館です。新規の事業を中心にご説明させていただきます。

坂井輪図書館の児童対象事業。まず、「ブックスタート」や「赤ちゃんタイム」、「おはなしのじかん」などは、昨年度から引き続き継続して行っております。

下から三つ目「こどもの日 ちょっとプレゼント」。こちらを、今年度新規で行いました。こちらは、こどもの日に来館して本を貸し出した子どもたちに、新聞紙で作った帽子をプレゼントするという事業です。

一番下の「中高生 本気で司書体験」。こちらは夏休みの事業になりますが、中高生向けの図書司書を体験できる事業を計画しております。

2ページ目をご覧ください。一般向けの事業ですが、今年度新たに行うものは、下から三つ目「西区図書館大賞」と、その一つ下の「おとなきぶんの本の投票」。こちらを、秋の読書週間に計画しております。これは、西区の3図書館すべてで行う事業になっております。西区の中で市民の方々に図書館の職員が推薦する本の中から1冊選んで投票してもらうという事業を考えております。

では、次に3ページ、内野図書館をご覧ください。こちらは、今年度から新規で始まったものは、一番上の「赤ちゃんタイム」になります。昨年度は、坂井輪図書館と黒崎図書

館で行っていましたが、内野図書館でも実施することになりまして、今、3図書館すべてで「赤ちゃんタイム」を行っております。

続きまして、黒埼図書館をご覧ください。こちらは、前回の協議会のときにも載せていたのですが、一番下の「黒埼図書館まつり」の日程が10月16日に決まりました。

続きまして5ページ目、(2)施設利用・施設見学・体験学習。こちらは、昨年度同様、各学校からの受け入れを行います。

(3)職員派遣。①の子育て支援についての職員派遣ですが、今回「ゆりかご学級」が今回職員派遣に入りました。「ゆりかご学級」は公民館が行っている事業ですが、こちらに図書館職員が出向いて、講師として子育て中のお母様に絵本の読み聞かせなどについてお話しするという講師派遣になっております。

続きまして6ページ、7ページ。広報、展示に関しては、昨年度と同様になります。特に大きな変更はございません。

以上、簡単ですが、平成28年度の事業計画を説明させていただきました。

(小島会長)

では、続けて予算のほうもお願いいたします。

(事務局)

続きまして資料5「平成28年度西区図書館当初予算一覧」をご覧ください。主に今年度の資料購入費について説明いたします。

今年度、西区全体の資料購入費は1,853万7,000円で、昨年度と比べましてマイナス186万8,000円、約9パーセントの削減となっております。この資料購入費ですが、まず各区に全体額が配分されまして、そこから区内の図書館、図書室への振り分けは中心館に任されております。各館の細かい内訳は、ご覧のとおりになっております。資料購入費の予算ですが、新潟市全体では毎年減っておりまして今後も厳しい状況が続くと思いますので、今まで以上に選書が大事になってきますし、計画的な資料の購入をしてまいります。

次にその他予算ですが、こちらは、資料購入費以外の西区図書館の管理運営費です。それから、黒埼図書館は単独施設ですので施設の維持管理費、坂井輪図書館の窓口業務委託費などがこちらに一つにして提示しております。今年度は4,187万8,000円で、昨年度と比べましてマイナス185万2,000円となっております。

以上が、予算の説明です。

(小島会長)

ありがとうございました。今ほど事業計画並びに予算の説明をしていただきました。それでは、事業計画につきまして、今、新規事業を中心に説明していただきましたが、何か

ご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。

(越智委員)

去年の事業計画でも質問したかもしれないのですが、**「TERACHUルネッサンス」**というのは、何でしたっけ。少し内容を教えていただきたいのと、昨年度は平仮名で今年**はアルファベットとカタカナ**になっているのですが、これは何か揉めたか何かで名前が変わったのかなのですか。内容と、その名前の表記が変わったところを少し教えていただければ。

(尾崎委員)

坂井輪地区公民館の主催事業で、西区地域デザイン講座というものをやっているのです。その平成26年度に生まれたグループなのですが、**「TERACHUルネッサンス」**というのがありまして、当時からアルファベット表記にはなっていたのです。それが、おそらく図書館で平仮名表記になってしまったのかと。団体のほうが固まっていなかったという理由です。

(越智委員)

分かりました。

(小島会長)

これは、寺尾中央公園でやる**「坂井輪ふれあいまつり」**の時のものですか。

(事務局)

坂井輪商工振興会が主催になって9月に行うのが**「ふれあい坂井輪まつり」**というもので、地域の方たちのお祭りなのですが、この度の**「TERACHUルネッサンス」**というのは、秋の頃に西区の建設課が主体となってやっている**「てらちゅうカフェ」**の一端です。休息所と寺尾中央公園の有効活用について検討している西区コミュニティコーディネーターの方たちがやっているミニライブラリーのことです。

(小島会長)

表記に関しては流動的らしいと。よろしいでしょうか。ほかにはいかがでしょうか。

(中山副会長)

職員派遣のところのその他で、図書館の紹介・資料提供等、未定となっていますが、私は職員派遣での図書館の紹介・資料提供というものが具体的なものとしてイメージができないのですが、どのようなものをお考えでしょうか。

(事務局)

例えば坂井輪地区公民館がやっている**「西区地域デザイン講座」**の中で、図書館の使い方、それからこういうことを調べているのだけれどもその資料はどのようにして調べたら

いいか、そのようなことをその講座にお伺いしてお話するというところをご依頼いただいています。そのときにあらかじめ打ち合わせをさせていただいて、例えば地域の商店街活性化のために何か事例があるかみたいな、そういうお話をいただいたときに、こちらで全国的な事例の本だったりデータベースを使った情報とか、そういうものを一緒になってお渡しするという、そういうものが講師派遣として司書が出向いて行くものです。

(中山副会長)

出前講座の図書館版みたいな感じですか。

(事務局)

そうですね。

(中山副会長)

分かりました。ありがとうございます。

(小島会長)

よろしいでしょうか。

では、続いて予算につきましてお願いいたします。だいぶ厳しくなっているようですが。

(平栗委員)

この事業計画の中の各種イベント関係がございましてね。これは、この予算の中では、その他の予算の管理運営費の中で見積もられているということなのですか。

(事務局)

そうです。

(平栗委員)

そういうことなのですね。そして事業の予算は一応全部積み上げて、坂井輪管理運営費の中に入っていると見てよろしいわけですか。

(事務局)

図書館事業費ですとか、こどもの関係の事業費ですとか細かく分かれているのですが、今この中ではひとまとめにしています。

(平栗委員)

管理運営費の中の予算として見ているということなのですね。

(事務局：戸塚)

そういうものも入っていますし、一番右の「左記以外」で321万円がそれにあたります。

(平栗委員)

事業ごとに一応予算は出して作っていると。例えば、このイベントについてはいくら位かかりそうだという概算は、一応全部作っているということですか。

(事務局：戸塚)

こども事業でいくらという形では作っています。

(小島会長)

よろしいでしょうか。細かい内訳はないわけですがけれども、逆に言うと、だいぶシーリングがかかって、9パーセント減ですか。上のほうですね。下は何パーセント減だったのですか。

(事務局：戸塚)

下は、4.5パーセントくらいのマイナスになっています。

(平栗委員)

これは、例えば新潟市立図書館の場合は、この予算全体が積み上がったものが市立図書館全体として一つの数字になるということなのですね。

(事務局)

そうです。

(平栗委員)

そして最終的にその予算をどのくらいにするとか、そういうものはどこから指示がくるわけですか。

(事務局)

図書館全体の予算の中でこれだけ減らさないという形でできています。

(平栗委員)

坂井輪図書館はいくらで、西区はいくらで削減しないよと。

(事務局)

資料費は別で積み上げて計算していくのですけれども、ほかの予算に関しては、坂井輪図書館のその他予算はこれだけ減らさないという指示があり、どの事業を減らすのかは坂井輪図書館で行います。

(小島会長)

新潟市の教育委員会全体で相当な予算減になっていますので。個々の事業によってそういう積算が出てきているわけなのだろうけれども、当然個々の事業で予算がかけられなくなったものもあるということですから、そのあたりも工夫していただくということだと思いますけれども。

(平栗委員)

新潟市全体の歳入は増えているのですか。その辺はどうなのですか。よく分からないのですけれども。

(事務局)

それは、調べなければ分からないのですが、新潟市全体ですよ。

(平栗委員)

厳しいのでしょうか。

(事務局)

厳しいですね。図書館歳入は、本当に微々たるものなのですが若干増えてはいるようですが、内訳まで細かいものは分からないのではっきりと言えないのですけれども、新潟市全体については、後ほど調べてお伝えします。

(小島会長)

この中の資料だけでは分からない部分もありますのでね。では、ほかにはよろしいでしょうか。

(越智委員)

少し感想なのですけれども、しつこく内野図書館に拘るのですけれども、行く人にとっては、まず内野図書館に行って、本間委員がおっしゃったように、今日は車で郊外に行こうとか、場合によっては県立図書館に行こうとかいろいろ選択できるし、車がある人にとってはそうなのですけれども、とにかく行ったら行ったでそこが図書館なのですよね。具体的には内野図書館が予算で30万円削られて、黒埼図書館が20万円削られて、大学図書館などでもそうなのですけれども、新聞や雑誌はあまりいじれないのですよね。購入し始めたらずっと購入するしかないのです、予算はここからはどうにもできなくて、どうしても一般図書を増やしたり減らしたりしかないのですけれども、内野図書館の周りには、例えば車を使えば西川図書館もあるしここもあるみたいなことが言えるわけなのですけれども、行ったときにどのくらいの本があるかというのは、行った人にはとても大事なわけですね。そうだと思うのです。利用統計を見ても分かるのですけれども、内野図書館は蔵書が少ないのですよ。持っている本がすごく少なくて、黒埼図書館とか坂井輪図書館の半分くらいしかないのですよ。貸出人数とか貸出冊数はそう変わらないですよ。特に黒埼図書館と内野図書館は変わらないのです。そうすると、いろいろな新しい本があって小説があって人気のある本が出たときに、なるべく同じように買って行って、できれば将来的に内野図書館の蔵書も増やしてあげたいみたいなことは数字からは思うのです。だけど、細かいかもしれないのですけれども、今回内野図書館は黒埼図書館より10万円余分に削られているのです。何かかわいそうだなという感想を持ちました。

(本間委員)

内野町の住人してみると、すごく便利な図書館なのですよね。少し歩いて行けばある

から。私も、やはり忙しいときにはまず内野図書館に行ってしまうのです。行くと、やはり本は少ないかなというのはあるし、大体絵本を借りるのですけれども、並べてあっても少し足りないかなという感想もあったり。それから、カウンターの職員の方の対応などが、暇なときは探してくださるけれども、混んでいるときにこれを探してくださいと言いづらかったり、忙しそうにしていると後にしようとかあるから、カウンターの方の対応の大変さとか。坂井輪図書館のように、西川図書館のように本が飾られていないかなと。イメージが少しね。もう少し明るい感じがあると、足も運びやすいのかなと。やはりもう少し気にかけてほしいなというのがありますね。

(小島会長)

予算、人の問題もあるのだろうと思うのですけれどもね。

(中山副会長)

関連していいですか。内野図書館に関して言うと、私のイメージとしては、キャパシティの問題も随分あるのではないかなと思うのです。黒埼図書館に関しては、旧町村のときのものも引きずって、ある程度キャパシティもあるので。古い本をどんどん捨てて入れ替えをするのだけれども、結局みんなの目に触れる冊数が少なくなるという形もあると思うのですけれども、その辺は図書館サイドとして、やはりキャパシティの問題は大きいですか。

(事務局)

はい。キャパシティの問題が一番大きくて、坂井輪図書館は増えまして919平方メートル、内野図書館は229平方メートル、黒埼図書館は779平方メートルです。ということで、どうしても内野図書館が狭くてキャパシティが少ない。ですので、本はもうけっこうたくさん入っているのですね。新しい本を入れようとすると、古い本を出さなくてはいけない。でも、まだまだ使える少し古い本もあります。内野図書館の蔵書構成は成熟しているので、そこからまんべんなく押し出さなければいけない。一方で坂井輪図書館は、まだまだ棚がスカスカなのです。ですので、このオープンして5年間くらいの間は、坂井輪図書館の蔵書を増やすことに重きを置いて、坂井輪図書館、内野図書館の距離も近いので補完し合っていこうと。そういう考えで予算配分をしています。

(越智委員)

少しいいですか。質問しようと思っていて忘れたのですけれども、内野図書館は1,500冊くらい減っているのですよね。蔵書が。それは、もう本棚がいっぱいで、もう減らすしかないということなのですね。

(事務局)

そうですね。それからだいぶ前の話なのですがすけれども、東日本大震災の前までは、本棚の上に本棚を積み重ねていて、それで蔵書を増やしていたのです。それはやはり危険だということで、そういう危ないものは全部撤去して、できるものは固定したのですがすけれども、固定で厳しいものについては本を除籍して、その棚をなくしたという経緯があります。

(平栗委員)

今の議題とは少し外れるのですがすけれども、その内野図書館から消えた1,500冊は、ほかの図書館にいつているのですか。それとも、もう廃棄処分に。

(事務局)

基本的に、古いものだったり、実用書の古いものでボーダーラインのところ、本当だったら場所があれば残しておくのだけれども、ないから処分しましょうと、そういうものもあります。

(平栗委員)

そして、捨てているのですか。分かりました。

(坂井輪図書館長)

捨てるものが多いです。基本的には古くなっている、よれよれしたりとかというものがほとんどです。坂井輪図書館に移管したものもあります。

(小島会長)

全部捨てるわけではなくてね。キャパシティの問題が一番大きいのですね。

(事務局)

一番大きいです。

(小島会長)

ただ、3館の予算配分は、坂井輪図書館である程度できるわけですね。その中で、この5年間は、坂井輪図書館の蔵書の充実を方針としてとっているのだという、方針があるということですね。

(事務局)

はい。

(小島会長)

ここでまたやり取りをするとあれなのですがすけれども、ほかに何かご質問などはございませうでしょうか。

それでは、⑥に移らせていただきたいと思います。地区図書室関係ですね。お願いいたします。

(事務局)

それでは、資料6、6-1と6-2の2枚に渡っておりますのでそちらをご覧ください。
新潟市の政策や業務について、分析や評価を行うために設置されたところがあります。政策改革本部というところがありますが、そちらによって、過去図書館、図書室の分析が行われてまいりました。それによりまして、さまざまな改善に取り組んでいるところです。

昨年度は、子どもに特化した図書館ということで、坂井輪図書館では2階フロアの半分を「子どもとみんなの広場」として、昔の路地裏のような、多少賑やかであっても皆さん温かく見守りましょうという、そういう場所として位置付けいたしました。また、今年度は返却ポストを24時間利用できるように、西区では三つの図書館で4月から実施しております。

その中で、今日報告いたしますのが「図書室の有効活用」ということで、開室時間を併設施設の開館時間に合わせるように、また図書室資料を地域で有効活用するよという取り組みについて説明させていただきます。こちらの資料6-1なのですが、これは中央図書館で作成したものになります。

2の図書室拡大状況です。東区プラザとアルザにいがた情報図書室があるのですが、そちらを除く新潟市の23地区図書室について、この①から③の三つのパターンによって変更いたしました。※の以前から変わらずというところが2室あります。①の施設の開館時間どおりに時間を拡大したところが、新潟市全体で9室、西区で言いますと真砂、赤塚、中野小屋、黒埼北部となります。開室時間を一部拡大したというのが、新潟市全体では8室ですが、西区では西内野、小針、青山となりまして、③の拡大が困難だという4室の中に西区のものはありません。

具体的にどうかと言いますと、資料6-2をご覧くださいませでしょうか。図書室名「真砂」から「黒埼北部」とありまして、西区の地区図書室、小さいところがこちらになります。①の「現在の開室日時」というのが網掛けをしているところです。そして、②の「以前の開室日時及び現在の図書室職員在室日時」とあります。こここのところが、昨年度までの地区図書室の開室日時でした。これだけしかやっていないのは有効活用していないのではないかと見直しをいたしまして、これ以外もやりましょうということで、現在の開室日時になったものです。ただ、図書室の職員が在室している時間は今までどおりで変わらないということで、この日時にやっています。

では、職員がいる時間には何をしているかと言いますと、予約の本の受け取りとか新規登録、その辺をこの日時に限ってさせていただき、それ以外のときは無人の状態になっておりまして、セルフで貸出、返却をしていただくと。それから予約の受付ということで、こういう本が読みたいのだけれどもというものを書いて鍵付きのポストの中に入れていた

だくということにしています。地区図書室は、坂井輪とかの図書館と違いましてオンラインになっていません。昔の学校図書館がそうだったと思うのですけれども、本当に手作業で図書カードを入れたりという貸出方式ですので、かえってセルフということができるのかなというところでやっております。一番下の※の黒埼北部地区図書室については、これ以前から公民館の職員が図書室業務をやっておりました。町の時代の影響なのですけれども、ですので、開室時間は増やしましたけれども、セルフ貸出は行っておりません。

それでは、資料6-1に戻っていただきまして利用状況なのですけれども、こちらは中央図書館が作成したもので、拡大から2か月余りを経過しまして、一部で利用が増えた地区図書室もあったが全体としてはまだ利用増が見られませんということで、西区についてもそれほど増加はありません。

4番目の図書資料の有効活用の視点になるのですけれども、こちらは、地元のひまわりクラブをはじめ学校、併設施設の利用団体や自治会・町内会などへの団体貸出をする仕組みを作ったとあります。図書室の有効活用をするために、一つの視点としては時間を拡大しましょう、もう一つは、そこにある図書室の資料をもっと有効活用できないかというところで取り組んだものです。

西区で言いますと、青山コミュニティハウスに青山地区図書室がありますが、こちらはコミュニティ協議会主催で赤ちゃん連れの親子の居場所として「おしゃべりカフェ」という事業を行っております。その時間内であれば、自由に図書室の中に入って来ていただいて本を選んでもらう。その選ぶときに迷わないように専用のコーナーを作りまして、そこから持って行ってもらう仕組みを作りました。

また、真砂地区図書室、西内野地区図書室、こちらは学童保育のひまわりクラブが同じ施設の中に入っておりますので、通常は地区図書室では団体貸出を行っていないのですけれども、団体貸出をすることにいたしました。残りの中野小屋地区図書室と赤塚地区図書室についても、近くの学童保育や子どもの施設にこれから働きかけをしていきたいと考えております。

5番目なのですけれども、今後の取り組みということですが、この一番下のところなのですが、改善による利用の推移が、先ほども申し上げましたがまだ見えていません。地域の実情を考慮したうえで、必要な運営や管理の変更をしていかななくてはいけないと考えております。

(小島会長)

ありがとうございました。では、地区図書室の有効活用ということで、資料が2枚あります。1枚目は新潟市全体、それから2枚目が西区の状況でございますが、何かご質問等

はございますでしょうか。

(越智委員)

大変なのだろうなというのが開室時間等で分かるのですけれども、当然、基本的にはすごくいいことだと思います。使えない時間が減って使える時間が増えるというのはいいことですが、黒埼北部地区図書室だけ特別扱いされるのですか。

細かいことというか、いいところもあって、例えば黒埼北部地区図書室はすべて貸出、返却等は以前と変わらずできる。いいことだと思うのです。例えば、細かいのですけれども、黒埼北部地区図書室だけ月末最後の平日は12時まで使えないということでしょう。これは？

(事務局)

黒埼北部地区図書室は、この時間全館清掃にあたっています。

(越智委員)

そうでしょう。なぜ、この黒埼北部地区図書室だけ月末最後の平日に掃除をするのかと。

(事務局)

黒埼の町の時代からということと旧新潟市というところで、運用が違ったのです。それを、新潟市と黒埼町が合併したときに合わせていきましょうという協議をして、その当時に何が合ったかは私には分かりませんが、そこで黒埼北部地区図書室とそれ以外の地区図書室の運用が少し違っているというのがあるのだと思います。

(中山副会長)

黒埼北部地区図書室に関しては、図書室はありますけれども、利用は一日一人くらいなのではないでしょうか。蔵書もそれほど魅力があるものではないと思います。貸出などもそんなになかったと思います。まだ電車があって駅前だった頃は違ったのですけれども、電車もなくなって、はっきり言って、実質どういう形で今利用されているのかは、私は少し疑問です。

(伊藤委員)

公民館の中ですよ。

(事務局)

黒埼北部公民館の中の一室です。

平成26年度末ですと、一日当たり6人の貸出です。

(中山副会長)

でも6人いるのですね。

(伊藤委員)

私は地元民なので分かりますけれども、あそこは公民館の中のほんの一部しかないので、普通の図書室と規模が全然違うのですね。

(中山副会長)

ですので、もっと充実させるのなら、蔵書もきちんと職員もきちんと置いてということもあると思うのですけれども、全然違うと思います。

それから、関連して少しいいですか。職員、職員とありますが、地区図書室の職員というものがどういう立場でどういう人たちなのか、それぞれの図書室で違うとは思いますが、教えていただけますでしょうか。

(事務局)

先ほどから申し上げているように黒埼北部地区図書室とそれ以外は違いまして、黒埼北部地区図書室は先ほど申し上げたとおり、公民館とそれから行政サービスコーナーがありますので、兼任した職員がやっております。そこに図書室業務も入っています。それ以外の旧新潟市の図書室の職員は、臨時職員という形で雇用しております。

歴史を紐解きますと、その昔、地区図書室は貸出文庫だったりということで、地域の方たちがやっている小さな文庫だったのです。いろいろな文庫から発生したところもありますしそうではないところもありますけれども、そういう地域の方たちの要望があって始まったところだったのです。そこで地元の人たちの有償ボランティアみたいな形で運営をやっていたのですが、段々いろいろな社会情勢も変わって、個人情報の観点だとか新潟市全体として図書館、図書室をどうするかという話になったときに、それでは地域の方たちにそこまで個人情報でお願いするのはどうなのか。また、通勤途中の事故に労災がないとかあり、それであれば新潟市の臨時職員ということで雇用しようということで、今臨時職員ということでやってもらっています。

(小島会長)

地区図書室の発生、出来上がった経緯みたいなお話があったのですけれども、基本的には、全部各地域でそのように立ち上げてきたものを市が引き継いでやっているのが地区図書室でいいわけですか。

(事務局)

いろいろな図書室、いろいろなものがありますけれども、そういう貸出文庫から発生したところもありました。

(小島会長)

それを維持することからすると、新潟市の図書館としてこれからもこの地区図書室を拡大していくのかどうかという部分もありますよね。

(平栗委員)

その辺の方向性はまだ出ていないのですか。

(事務局)

今、いろいろと検討をしているところです。

(平栗委員)

例えば、小針地区図書室がどこにあるのか、青山地区図書室がどこにあるのか、全然私は分からないのですよね。小針地区図書室などは公民館の中ですか。

(事務局)

坂井輪コミュニティセンターの中の一室です。

小針地区図書室は、面積が 30 平米。蔵書も 4,000 冊ありません。3,900。

(平栗委員)

蔵書関係は、お子さん向け、児童書関係、一般小説などいろいろあるのですか。

(事務局)

どちらかというと、地域の方たちのニーズに合わせるのですけれども、やはり西区の地区図書室ですと小説が多いです。

(中山副会長)

もう 20 年までいかない 10 年以上前にほかの地域ですけれども地区図書室を覗いたことがあるのですが、蔵書がかなり大変な感じが。タレント本と占い本と、ずらっと並んでいるところがあって、その図書室を覗いたときに何かこれでいいのかなと思って。当時の中央図書館、沼垂か何かが管轄していたときに、蔵書構成についても地区図書室をカウントするのであれば、多少介入したほうがいいのではないですかという要望を以前に出したことが実はあるのですけれども、地区図書室の蔵書についても、今は新潟市の選書基準みたいなものをクリアしているのでしょうか。

(事務局)

しています。

(中山副会長)

していますか。ありがとうございます。

(事務局)

役割があって、中心図書館はこういう蔵書構成ですよ、地区図書館はこういう蔵書構成ですよ、地区図書室はこういう蔵書構成ですよという、そういう役割分担によって蔵書構成はそれぞれ変わってきます。

(中山副会長)

ありがとうございました。

(小島会長)

よろしいでしょうか。全体で同じではないということですね。

(平栗委員)

この平成 28 年度の予算額、地区図書室で 120 万円の資料購入費が上っているのですね。だから、これからも維持していくということなのでしょうね。

(事務局)

積み重なって全部で、7 室分でこのお金になります。やはり 1 室当たりの金額は、どうしても少なくなります。

(小島会長)

よろしいでしょうか。それでは、報告を終わらして、次に協議事項ということで、図書館評価につきまして事務局から説明をお願いいたします。

(坂井輪図書館長)

それでは、その次に綴じてあります、右上に「説明資料」とあるプリントをご覧ください。A 3 のシート 1 とシート 2 がありまして、その前に 1 枚、説明ということをつけてあるものになります。「図書館協議会における図書館評価について（シートの説明及び外部評価の仕方）」では、説明いたします。

新潟市立図書館では、平成 27 年度に後期計画がスタートいたしました「新潟市立図書館ビジョン」に則って運営をしております、毎年評価を行いまして、その結果を基に満足度の向上を図ることといたしております。この評価は、自己評価をまず図書館側でいたしまして、その後、図書館協議会の委員の皆様による外部評価をいただいております。

これからシート No. 1 と No. 2 の説明と、それから自己評価についてご説明申し上げますが、本日ここでは成果物として一つにまとめるということまではいたしません。今日協議していただきたいのは、これらの結果を踏まえて今後どのように進めていくか、西区の図書館がどのように向かっていったらいいかというようなご意見をいただきたいと考えております。

提出については、下のほうの提出方法になりますが、今日、この協議会の会議が終わったら提出していただくのでもよろしいですし、今日のこの話し合い、協議を経ましてもう少し評価を考えたいということであれば、別添の返信用封筒に入れて 1 か月後までに郵送していただいても、どちらでもかまいません。

それでは、A 3 の資料の説明をさせていただきます。まず、シート 1 になります。「平成 27 年度新潟市立図書館施策事業評価シート」になります。図書館ビジョンの四つの柱に

沿って図書館を運営しております。一番左側の縦に細長く書いてありますが、「ネットワークを活かした課題解決型図書館」、「特色ある地域づくりに寄与する分権型図書館」、「子どもの読書活動を推進する学・社・民融合型図書館」、「市民参画と協働を推進するパートナーシップ型図書館」、この四つに沿って運営をしております。それぞれの区分の中で二つに分かれておりまして、網掛けをしているところが全館共通評価項目です。そして、下のところが館の重点評価項目になっております。

一番最初の「ネットワークを活かした課題解決型図書館」については、項目としては、課題解決のためのレファレンスサービスの充実。概要といたしまして、市民に身近な課題解決のためのレファレンス（調査・相談）サービスを充実させ、迅速かつ確かな情報提供を行うとなります。その右側にある実施結果、こちらが結果をお示ししております。右側、評価というところの中で自己評価と外部評価と別れておりまして、自己評価をこちらの図書館であらかじめ記入させていただいております。その次の3段階、それから外部評価、こちらを委員の皆様にご記入いただきたいと思っております。

自己評価ですが、坂井輪図書館は、区役所や自治協議会等で挙げられた課題をレファレンスとして受け付け、情報提供を行うことができました。レファレンス事例を蓄積し、情報共有を図りました。内野図書館では、施設が狭いということで減少いたしました。先ほどご意見があったようなことなのかなと思っております。

館の重点評価項目は、レファレンスサービスのPRに努めますということにいたしました。結果につきましては、坂井輪図書館ではきめ細かい対応、お客様の課題を聞き取ることができた。黒埼図書館では、レファレンスのPRのためにコーナーを設けました。事例を掲示することによって、気軽に質問できるような雰囲気づくりに努めましたということです。

続きまして「特色ある地域づくりに寄与する分権型図書館」。全館共通評価項目は、地域資料の体系的な収集と活用です。実施結果につきましては、特に坂井輪図書館では、郷土・行政資料を積極的に収集しております。8,906冊が9,587冊に増加いたしました。また、市、郷土に関する展示も行っております。

自己評価につきましては、地域団体の資料や区役所で作成した資料など、書店で購入できない資料を積極的に収集いたしました。黒埼図書館では、継続して、地域の出身の山田慶二さんというアマチュアの画家の方がいらっしゃって黒埼町時代に大量に寄贈していただいた、その方の絵画を展示しておりますし、また追悼コーナーを新たに設置いたしました。初回は新潟市出身の作家である火坂さんを取り上げました。内野図書館では、地元出身の作家である藤沢周さんの展示コーナーを設置しております。

館の重点評価項目ですが、こちらのほうも郷土・行政資料の収集と整理ということで、坂井輪図書館をピックアップして積極的に収集するという事です。やったことといたしましては、レファレンス等の日常業務の中から西区に関係する郷土・行政資料を発見いたしまして収集を行いました。

自己評価ですが、地域住民からのレファレンスにより、例えば新通小学校の記念誌があることがこのレファレンスの、お問い合わせによって分かりまして、それを図書館資料として寄付してもらうことができました。このように、常に地域資料についてアンテナを張って収集することに成功しております。

続きまして「子どもの読書活動を推進する学・社・民融合型図書館」。全館共通評価項目については、子どもの読書環境の整備ということで「ブックスタート」事業について挙げられております。西区では、平成27年度から坂井輪図書館が主体となってやっております。それ以前からやっておりますけれども、それは中央図書館の管轄でやっておりました。

「ブックスタート」は1歳の歯科検診で行いますので、その子たちがその後どのように図書館を利用するのか、本をどのようにして活用しているのかということを検証するために、3歳児検診の会場でアンケートを実施するなど今までの「ブックスタート」事業の検証を行うというものでして、西区においては、参加率95パーセントということで実施いたしまして、アンケートにつきましても結果が出まして、8月から10月までの3か月間でアンケートを取りまして、結果では「ブックスタート」によって子どもに絵本を読んであげるきっかけになったという回答が半数以上になりました。

評価といたしましては、「ブックスタート」が乳幼児期の読書活動の働きかけとして大きな役割をしているということが確認できました。一方で、3歳児でのアンケートでは、図書館を利用する親子は半数に満たなかったという結果が出まして、親子が気軽に図書館を利用できるように、坂井輪図書館では「子どもとみんなの広場」を設置したり、「赤ちゃんタイム」を3図書館で行っていったりしていきたいと考えます。

館の重点評価項目ですが、子どもや親子が図書館に来館することの抵抗をなくすために、親子対象の事業を行うことといたしました。地域のイベントに「おでかけ図書館」として参加して、本の貸出やしおり作りを行って、子どもとその保護者に図書館のPRを行いました。また、イベントに参加した親子に後日図書館に来館してもらえるようにということで、西区の図書館特製の記念品としてラミネート加工したしおりですとかブックカバーを用意いたしまして、その結果イベントに参加してくれた人の中の2割程度の人が図書館に来てくれたということが分かりました。

また、自己評価のところでは、大きなイベントではなくて小さなイベント、例えばハロ

ウィン期間中に折り紙のプレゼントをしたりとか、そのようなことをして、子どもたちに図書館は楽しいところだよということを実感してもらえたのかなと感じております。

その次の「市民参画と協働を推進するパートナーシップ型図書館」ですが、全館共通評価項目につきましては、ボランティアや教育機関、民間団体との協働を推進しますということです。西区といたしましては、地域のイベントに「おでかけ図書館」として参加いたしまして、子どもだけでなく大人にも本の貸出を行いました。内野図書館では「うちのキッズランド」、坂井輪図書館では「大人の部活ムーミン部」、こちらの事業を地域の方たちとの連携によって行いました。

自己評価といたしましては、地域住民を巻き込んだ図書館事業や地域のイベントへの参加によって、連携事業を行うことができました。また、自治協議会や商工振興会との結び付きによって今年はしますかという形で依頼をいただくことができまして、地域に溶け込んでいるのかなということが分かってきました。

館の重点評価項目といたしましては、民間団体との連携ということで、団体貸出制度を活用した民間団体等との協働モデル事業を実施しまして、地域の中に図書館の本を置き、本を通じたコミュニケーションづくりを行うということで取り組みまして、団体登録の登録団体数は、平成 27 年度の実績では 12 団体になっております。この制度を活用した団体以外にも、全体として団体貸出数は増加しております。司書がセレクトした本を貸し出すというやり方をしておりますので、依頼時にどのような本がよいか要望をお聞きすることによって顔の見える関係ができているのかなと感じております。

続きまして、シート 2 をご覧ください。シート 1 で説明したものを指標別にしたものになっております。上の表の図書館運営の基本的サービスということで、資料購入費ですとか蔵書点数、貸出点数等が載っております。平成 25 年度から平成 27 年度の実績がありまして、前年度比がこちらのようになっております。

自己評価ですが、資料購入費が増加しております。こちらは、平成 26 年度は坂井輪図書館がリニューアルオープンいたしましたので、そのときに少したくさん金額をもらえた。それから平成 27 年度は、地区図書室の資料費が含まれました。それまでは中央図書館が所管しておりましたので資料費も中央図書館に含まれていたものが、平成 27 年度は西区のほうにきたということです。ですので、3 図書館の合計では、平成 26 年度と同じような水準になっております。貸出点数や登録者数が微増となっているのは、先ほどからありました坂井輪図書館の改修工事の影響によるものかなと思います。

評価指標の右側に「後期新規」、少し下のほうを見ますと「後期変更」と書いてあるものがあります。こちらは、後期計画を新たに直したところがありますので、それに合わせ

て指標を新たに考え直した、「新規」のところは見直したところになりますし、「変更」につきましては、今までもあったのですけれども指標の取り方を少し見直したというものになります。ですので、そういうところにつきましては、平成 25 年度、平成 26 年度は「-」で、数値は載っておりませんのでご了解ください。

右側のところが外部評価になりまして、三段階評価になっております。そして空欄のところにコメントをお願いいたします。前にご指摘をいただきました三段階評価が合っていないというところがありましたので、数値が大きくなる 3 のほうが評価する、よくやっているということで、数値が少なくなっている 1 のほうが評価しないというものに全部合わせてありますので、ご承知おきください。

それでは、下の表にまいります。こちらは、先ほどの図書館ビジョンの四つの柱に沿っております。レファレンス件数、個人予約件数、この 2 点の平成 27 年度の目標に対しまして平成 27 年度の実績が書いてありまして、そして自己評点をつけてあります。レファレンス件数が増加いたしましたのは、所蔵調査をカウントする基準をこちらで見直しをいたしました。これまでは、本当にちょっとしたことをカウントしていなかったのですけれども、それも立派な、お客様からお問い合わせをいただいて私どもが答えたということで、それはきちんとカウントしていきましょうということによるもので増えております。

続きまして、「特色ある地域づくりに寄与する分権型図書館」になりますが、こちらは郷土・行政資料の蔵書冊数、貸出冊数、それから職員の派遣人数、公民館との連携・協力事業数、記載のとおりになっております。郷土・行政資料については、計画通り蔵書を増やすことができました。貸出冊数については、やはり全体の貸出冊数が減少していることと同様に達成することができませんでした。自己評点 2 で、だいぶ減ってはいるのですけれども、こちらの評点の数値については、下回っても 80 パーセント以上であれば 2 をつけましょうという取り決めを全市でしておりますので、2 という評点をさせていただいております。それから、公民館等との連携事業につきましては、昨年度リニューアル 1 周年記念事業やタブレット講座等、公民館と一緒にやろうというものがありましたので、これだけの実績が得られました。

続きまして「子どもの読書活動を推進する学・社・民融合型図書館」。児童書の貸出冊数、小・中・高校への団体貸出数、子ども・親子対象事業の参加者数、職場体験受入数、職員の派遣、こちらは子どもの読書に関するものです。公民館との連携も、子どもの読書に関するものが記載のとおりになっております。やはり児童書の貸出冊数が達成できなかったのは、郷土資料と同じような理由なのかなと考えております。子ども・親子対象事業の参加者数が増えたのは、先ほども申し上げましたが、参加型のイベントを実施した

ためであると言えます。

「市民参画と協働を推進するパートナーシップ型図書館」。図書館ボランティア活動者数、ボランティア団体、これは西区には関係ありませんでした。利用者の意見を把握する機会の設定、共催・協働事業の実施件数は記載のとおりです。図書館ボランティア活動数は、主に坂井輪図書館の配架・書架整理や雑誌配布のための、リサイクルなのですけれども、そのためのボランティアが増加したためで、気軽にできるボランティア活動として定着してきたのかなと考えております。

そして、「効率的・効果的な運営」ということで、職員のスキルアップを目指すということで研修参加人数。平成27年度は、ブックトーク、本の紹介をするものなのですけれども、そちらや絵本の選び方など、西区独自で研修を行いました。この研修により、小学校の文化祭や学校の読書週間中のイベント、また子育て支援センターの絵本講座などに職員を派遣していくのですが、そのようなときに自信を持って職員を派遣することができるようになったのではないかと思います。

(小島会長)

ありがとうございました。それでは、図書館評価ということで今説明をいただきましたが、新しく委員になられた方もいますし、まず、中身の前にこの図書館評価ですが、目的であったり方法というのでしょうか、それに関して、この協議会が終わってから評価を実際に記入していただくわけですけれども、何かその辺のところでご質問等はございますでしょうか。

(平栗委員)

評価シートの全体の話なのですけれども、大項目として4項目あるのですけれども、これについて、坂井輪図書館だけに限らない話なのですけれども、やはり四等分ということでは25パーセントずつウェイトを置くという形で考えていいわけですか。ここにプライオリティがあるとかないとか、優先順位とか。4項目ありますよね。これは新潟市全体の図書館運営にかかわる基本的な話なのですけれども、まったく同じウェイトでもって4分の1ずつ目標をつくりますよという話なのです。この中でどれを重点的にやっていくというような順位づけとか、そういうものは全然ないのですか。

(事務局)

基本、全部やっていかななくてはいけない、整備していかななくてはいけないよねということで、図書館ビジョンということでつくっております。

(平栗委員)

4項目一緒のウェイトですよという形なのですね。4分の1、4分の1、4分の1、4

分の1、この方向、この方向、この方向、この方向ということで、差はないという形なのですね。

(小島会長)

要するに四つの柱があって、それぞれを充実させることで図書館全体を。評価に関しては、当然4項目それぞれについてしていくわけですがけれども。ご質問等はございませんでしょうか。

では、シート1につきまして、先ほど言ったようにこの後は個人作業になるのですが、評価するに当たって今の説明の中でもう少し聞いてみたい点がありましたらお願いしたいと思います。では、シート1。

では、また何かありましたら、後でお願いします。では、シート2について何かご質問等はございますでしょうか。

(平栗委員)

シート2なのですけれども、施策・事業のところで「ネットワークを活かした課題解決型図書館」の3番目の「ビジネス支援サービス相談受付件数」というものが空欄になっているのですけれども、これは何か意味があるのでしょうか。意味があるというか、ないからなののでしょうか。それとも、平成28年度の目標も何もないのですけれども。

(事務局)

ビジネス支援サービスは全市の図書館で取り組んでいるところなのですけれども、中央図書館、ほんぼーとで中心的にやっております。西区ではビジネス支援サービス相談を行っていないので、斜線になっております。

同様に斜線になっているところが、「市民参画と協働を推進するパートナーシップ型図書館」のところで「ボランティア団体交流会参加者数」も、中央図書館でとりまとめてやっておりますので、西区のボランティアも参加はいたしますけれども、取りまとめの指標としては中央図書館になります。

(小島会長)

これは、西区にかかわらず全部記載してあるのですね。

(平栗委員)

だから、西区としては関係ないというか、別に表記しなくてもよかったということですか。そういうことなのですね。

(坂井輪図書館長)

はい。

(本間委員)

こんな質問すると言われるかもしれないのですけれども、なぜ評価しなくてはいけないのかなと思って。どこに行っても評価、評価なので。素朴な疑問なのですけれども。

(事務局)

やはり市民の税金を使って事業をやっておりますので、効率的な運営を図書館はしていかなければいけないと。そのためには、効率的、効果的に成果を上げるようにきちんとやっていたらということでは評価を自分でもし、また皆様にもお願いしていると、そのように捉えておりますが。

(小島会長)

行政もそうですし学校もそうなのですけれども、要は、今まではそういう評価はなかったのですけれども、やはり企業と同じようにある程度数値目標であったりとかそういうものをしっかりと持って、それに向かって努力をしていくというか、そのようなことで活動して、そしてその結果を市民であったり地域の方々、このように目標を持って取り組んで結果としてはこうなりましたということを知ってもらわなければならないかということですね。大きくくりではそうだと思うのですけれども。

(本間委員)

それでいい方向に進んでいくのであれば、いいことですよね。ただ、それによって、ただ書くだけで振り回されていくのは嫌だなと感じたものですから。

(小島会長)

最初に数値の話もありましたけれども、数値だけで評価できるものとそうでないものが当然ありますので、そこも含めて、確かにそこに数値も出ていますけれども、実際の現場の様子を見ていただいたりとか、皆さんがそれぞれお持ちである図書館に対する思いであったりとか、イメージとか考え方であったりとか、そういうことも含めて書いていただければいいかなと。

(本間委員)

分かりました。

(平栗委員)

外部評価はそういう形でよろしいのですか。コメントするのはなかなか難しいのですけれども。必ず入れなければいけないのですか。この外部評価は。何か埋めなければいけないのでしょうか。

(伊藤委員)

コメントは、特にある人だけでいいのでしょうか。

(小島会長)

そうですね。

(平栗委員)

こちらの参考資料を見ると、皆さん、ものすごく書いていらっしゃるから。

(小島会長)

数値目標を作られるときがまたあると思うのですけれども、例えば個人予約件数の平成26年度の実績が11万7,964で、目標が14万3,000だと。そして実績が14万162なので。でも、平成26年度の実績から見れば、遥かに実績は上にいっているのに目標には達していない。

(事務局)

平成26年度はやはり休館の影響がありまして、それを1か月あたりに割返して1年間経つとこのくらいになるのだろうという希望があって目標を設定したのですが、実際はそれほど伸びなかったということなのです。

(小島会長)

目標設定の方針だったり、そういうものだと思うので。ただ、実際これだけの目標を設定したのになぜそこまで届かなかったのかという、一番最初の話に戻るのですけれども、原因を探るということも大事だと思うので。

すみません。時間になってしまったのですが、何かほかにございますでしょうか。では、資料を読んでいただいて、評価をよろしくお願ひしたいと思います。

では、その他のほうはよろしいでしょうか。では、事務局のほうでございますでしょうか。

(事務局)

事務連絡になりますが、今後の予定についてです。

今説明しました図書館評価についてですが、先ほどもお話ししましたとおり、今日提出していただける方は、協議会終了後、事務局へ提出をお願いいたします。その際、お名前を書く欄がないので、空いているところでけっこうですので、余白にお名前を書いていただくと助かります。それから、返信用封筒を置いておりますので、後日、8月15日までに返送をお願いいたします。

今後の図書館協議会なのですが、11月ごろにはほかの新潟市の図書館協議会合同で情報交換会を行います。こちらは、日程等が決まりましたら改めてご連絡いたします。また、坂井輪図書館の協議会は年2回を予定しているのですが、来年3月に予定しておりますので、こちらでも後日ご連絡いたしますので、よろしくお願ひいたします。事務局からは、以上です。

(小島会長)

ありがとうございました。では、本当に時間ぎりぎりになって申し訳ございませんでしたが、皆様のご協力で議事を進行することができました。ありがとうございました。これをもちまして、本日の第1回協議会を終了させていただきたいと思います。お疲れさまでございました。